洗顔	介助が必要	53.6	58.5[4]	-4.8
洗身	介助が必要	88.4	84.8	3.6

1）は、N=68、2）は、N=428、3）は、N=425、4）は、N=426。

③ コミュニケーション関連項目

コミュニケーション関連項目のうち徘徊の有無によって統計的な有意差が示されたのは、11 項目であった。

「今の季節を理解できない」は、「徘徊有り」群の場合 66.2%で、「無し」群では、30.6%と 35.6 ポイントの差があった。次いで、「直前を思い出すことができない」は、「徘徊有り」群の場合 72.1%で、「無し」群では、38.5%で 33.6 ポイントの大きな差があった。「毎日の日課を理解できない」は、「徘徊有り」群の場合 75.0%で、「無し」群では、42.4%で 32.6 ポイント、「年齢を答えることができない」は、「徘徊有り」群の場合 69.1%で、「無し」群では、36.9%で 32.2 ポイント、「指示への反応が通じない」は、「徘徊有り」群の場合 66.2%で、「無し」群では、35.0%で 31.2 ポイント、「日常の意思決定ができない」は、「徘徊有り」群は、43.3%、「無し」群は、31.7%と 27.7 ポイント、「場所を答えることができない」は、「徘徊有り」群は、43.3%、「無し」群は 19.3%と 23.9 ポイントの差があり、これらの項目については、すべて「徘徊有り」群における自立度が低いことが示された。

また、「電話の利用」に介助が必要な「徘徊有り」群における割合は、97.1%、「無し」群では、78.3%と 18.8 ポイントの差があり、「金銭の管理」介助が必要な「徘徊有り」群における割合は、97.1%、「無し」群では、79.5%と 17.6 ポイントの差が示され、「徘徊有り」群において介助が必要な割合がかなり高いことが示された。

表 9-5　徘徊の有無によって有意差があったコミュケーション関連項目のありの割合（徘徊の有無による割合の差降順）

		徘徊有り（N=69）	徘徊無し（N=429）	徘徊の有無の差
		%	%	
今の季節を理解	できない	66.2	30.6[3]	35.6
直前を思い出す	できない	72.1[1]	38.5	33.6
毎日の日課を理解	できない	75.0[1]	42.4	32.6
年齢を答える	できない	69.1[1]	36.9[3]	32.2
指示への反応	通じない	66.2[1]	35.0[4]	31.2
日常の意思決定	できない	59.4	31.7	27.7
場所を答える	できない	43.3[2]	19.3	23.9

電話の利用	介助が必要	97.1	78.3[3)]	18.8
金銭の管理	介助が必要	97.1	79.5	17.6
意思の伝達	伝達できない	14.5	14.9	-0.4
名前を答える	できない	3.0[2)]	12.8	-9.8

1）は、N=68、2）は、N=67、3）は、N=428、4）は、N=426。

④ BPSD 関連項目

BPSD 関連項目のうち徘徊の有無によって統計的な有意差が示されたのは、18 項目であった。

徘徊の有無によって、最も差が大きかったのは「1 人で戻れない」が「ある」が、「徘徊有り」群は、100%、「徘徊無し」群は、0%と示され、100 ポイントの差があり、顕著な違いが示された。次いで、「ひどい物忘れ」は、「ある」が、「徘徊有り」群は、95.7%、「徘徊無し」群は、50.4%と示され、45.3 ポイントの差が示され、「目的無く動き回る」は、「ある」が、「徘徊有り」群は、49.3%、「徘徊無し」群は、5.1%と示され、その差が 44.1 ポイント、「目が離せない」が「ある」は、「徘徊有り」群は、47.8%、「徘徊無し」群は、4.7%と示され、43.2 ポイントの差がしめされた。これらの行動は、徘徊の有無によって 40 ポイント以上の差があった行動であった。

続いて、「火元の管理」は、「ある」が、「徘徊有り」群は、42.6%、「徘徊無し」群は、5.1%と示され、37.5 ポイントの差が示され、「落ち着きが無い」は、「ある」が、「徘徊有り」群は、43.5%、「徘徊無し」群は、6.1%と示され、37.4 ポイントの差が示され、「介護に抵抗」は、「ある」が、「徘徊有り」群は、59.4%、「徘徊無し」群は、24.1%と示され、35.3 ポイントの差が示された。これらの行動については、「徘徊有り」群が、30 ポイント以上、「徘徊無し」群より高い行動となっていた。

「被害的な行動」が「ある」が、「徘徊有り」群は、31.9%、「徘徊無し」群は、9.3%と示され

22.6 ポイントの差が示された。「昼夜逆転」が「ある」が、「徘徊有り」群は、44.9%、「徘徊無し」群は、22.4%と示され、22.5 ポイントの差が示された。「感情が不安定」が「ある」が、「徘徊有り」群は、45.6%、「徘徊無し」群は、23.4%と示され、22.2 ポイント、「暴言や暴行」が「ある」が、「徘徊有り」群は、31.9%、「徘徊無し」群は、10.8%と示され、21.1 ポイントの差が示され、これらの行動についても徘徊有り群にかなり高い割合で発生していた。

「不潔な行為がある」については、「徘徊有り」群が 14.5%、「無し」群が 2.8%、「異食行動がある」は、「徘徊有り」群が 13.0%、「無し」群が 2.6%、「物や衣服の破壊がある」は、「徘徊有り」群が 10.1%、「無し」群が 2.6%と、徘徊有り群と無し群の差は大きい行動ではあったが、徘徊有り群においても、その行動の発生は、かなり稀であることが示されていた。

表 9-6　徘徊の有無によって有意差があった BPSD 関連項目のありの割合
（徘徊の有無による割合の差降順）

		徘徊有り（N＝69）	徘徊無し（N＝429）	徘徊の有無の差
		%	%	
1 人で戻れない	ある	100.0	0.0	100.0
ひどい物忘れ	ある	95.7	50.4[2)]	45.3
目的無く動き回る	ある	49.3	5.1	44.1
目が離せない	ある	47.8	4.7	43.2
火元の管理	ある	42.6[1)]	5.1	37.5
落ち着きが無い	ある	43.5	6.1 [3)]	37.4
介護に抵抗	ある	59.4	24.1 [3)]	35.3
被害的	ある	31.9	9.3	22.6
昼夜逆転	ある	44.9	22.4	22.5
感情が不安定	ある	45.6	23.4	22.2
暴言や暴行	ある	31.9	10.8	21.1
作話	ある	29.0	9.1[4)]	19.9
無断で収集	ある	21.7	2.1	19.6
幻視・幻聴	ある	30.4	13.1	17.4
同じ話や不快な音	ある	39.1	22.4[4)]	16.7
不潔な行為	ある	14.5	2.8[4)]	11.7
異食行動	ある	13.0	2.6	10.5
物や衣服の破壊	ある	10.1	2.6	7.6

1）は、N=68、2）は、N=425　3）は、N=427、4）は、N＝428。

⑤ 特別な医療、認知症度、寝たきり度、廃用の程度関連項目

特別な医療については、回答率が低く、全体で 90 名の回答しか得られなかった。とくに徘徊有り群の回答は、3 名のみであったため、分析ができなかった。

「認知症度」（Ⅱ以上）の割合は、「徘徊有り」群は、55.2%であり、「無し」群は、27.0%と 28.2 ポイントの差があった。一方、「徘徊無し」の場合の発生率が「徘徊有り」の場合の発生率を上回っていた。「寝たきり度」（B 以上）は、徘徊有り群は、11.9%であったのに対し、「無し」群は、48.1%と 36.2 ポイント、「無し」群が高かった。

表 9-7　徘徊の有無によって有意差があった認知症度、寝たきり度

		%(N=67)	%	
認知症度	Ⅱ以上	55.2	27.0[1)]	28.2
寝たきり度	B 以上	11.9	48.1[2)]	-36.2

1）は、N=404、2）は、N=399。

(2)　サービスの利用状況及びサービス利用回数

「訪問介護」、「訪問入浴」、「訪問看護」、「訪問リハビリテーション」、「通所介護」、「通所リハビリテーション」、「福祉用具貸与」の７種類の介護保険サービスの利用状況及び利用回数について、徘徊の有無で統計的な有意差があったのは、「通所介護」、「福祉用具貸与」、「訪問入浴」、「訪問看護」、「訪問介護」の５種類で通所介護以外のサービスにおいては、すべて徘徊無し群のサービス利用率が高かった。

一方、「徘徊無し」群で「通所介護」は48.5%が利用しており、高い割合を示していたが、「徘徊有り」群は、75.4%とさらに高い利用率が示された。「徘徊無し」群で利用率が最も高かったのは、「福祉用具貸与」であり、75.4%と示された。「徘徊有り」群も高く、60.9%であったが、その差は、14.5 ポイントと大きかった。「訪問入浴」は、「徘徊有り」群では、2.9%と低かったが、「徘徊有り」群では、15.4%と高い割合であった。「訪問看護」は、「徘徊有り」群の利用率は、17.4%、「徘徊無し」群は、35.9%と「徘徊無し」群の利用率はかなり高かった。

表 9-8　徘徊の有無によって統計的有意差があった項目のありの割合（サービス利用状況）

		徘徊有り (N＝69)	徘徊無し (N＝423)	徘徊の有無の差
		%	%	
通所介護	あり	75.4	48.5	26.9
訪問入浴	あり	2.9	15.4	-12.5
用具貸与	あり	60.9	75.4	-14.5
訪問看護	あり	17.4	35.9	-18.5
訪問介護	あり	18.8	39.0	-20.2

2. 徘徊行動の有無別提供されたケア内容

(1) 徘徊行動の有無別高齢者に提供されたケア内容別ケア発生率

徘徊行動の有無別に高齢者に提供されたケア内容別の発生率に最も顕著な差がみられたケア内容は「行動上の問題の予防的対応」であり、「徘徊有り」群の発生率が 52.2%、「無し」群の場合の発生率が 14.7%であり、37.5 ポイントもの差が見られた。

次いで、「行動上の問題の発生時の対応」は、「徘徊有り」群の発生率が 42.0%、「無し」群の場合の発生率が 11.2%であり、30.8 ポイント、「外出時の目的地までの移動」は、「徘徊有り」群の発生率が 68.1%、「無し」群の場合の発生率が 45.7%であり、22.4 ポイントであり、これらのケア内容で発生率の差が 20 ポイント以上あった。

また、「排尿」は、「徘徊有り」群の発生率が 71.0%、「無し」群の場合の発生率が 53.8%であり、17.2 ポイント、「入浴」は、「徘徊有り」群の発生率が 68.1%、「無し」群の場合の発生率が 57.1%であり、11.0 ポイント、「敷地内の移動」は、「徘徊有り」群の発生率が 68.1%、「無し」群の場合の発生率が 57.1%であり、11.0 ポイントが続き、「更衣」は、「徘徊有り」群の発生率が 88.4%、「無し」群の場合の発生率が 79.0%であり、10.5 ポイントと 10 ポイント以上の発生率の差が見られた。

「徘徊有り」群の場合の発生率が高かったケア内容としては、「調理」97.1%、「更衣」88.4%、「食器洗浄・食器の片づけ」88.4%、「洗濯」82.6%、「摂食」79.7%、「薬剤の使用」73.9%、「排尿」71.0%などであった。

「徘徊無し」群の「徘徊有り」群よりもケアの提供率が高かったケアの種類は、「清掃・ごみの処理」、「水分摂取」、「対象者に関する間接業務」、「配膳・下膳」、「口腔・耳ケア」、「観察・測定・検査」、「整容」、「移乗」、「運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置」、「基本日常生活訓練」、「起座」、「清拭」、「呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置」、「スポーツ訓練」、「体位変換」、「病気の症状への対応」、「食べ物の管理」、「洗髪」の 62 種類中 18 種類であった。これは、必ずしもすべてのケアにおいて「徘徊有り」群が、ケアの発生率が高いわけではないことを示していた。

表 9-9　徘徊行動がある高齢者群に提供されたケア内容別ケア発生率
（有無の差降順上位 20 位）

	徘徊有り（N=69）	徘徊無し（N=429）	発生率の差
	%	%	
72　行動上の問題の予防的対応	52.2	14.7	37.5
71　行動上の問題の発生時の対応	42.0	11.2	30.8
65　外出時の目的地までの移動	68.1	45.7	22.4
41　排尿	71.0	53.8	17.2
11　入浴	68.1	57.1	11.0
21　敷地内の移動	68.1	57.6	10.5
18　更衣	88.4	79.0	9.4
34　摂食	79.7	70.9	8.8
33　食器洗浄・食器の片づけ	88.4	81.4	7.1
31　調理	97.1	90.2	6.9
56　戸締まり・火の始末・防災	15.9	10.7	5.2
81　薬剤の使用	73.9	69.0	4.9
66　外出時の目的地での行為	10.1	6.5	3.6
92　応用日常生活訓練	10.1	6.5	3.6
51　洗濯	82.6	79.5	3.1
59　その他の会話	36.2	33.3	2.9
53　整理整頓	31.9	29.8	2.0
55　金銭管理	4.3	2.3	2.0
64　来訪者への対応	14.5	12.6	1.9
99　その他の機能訓練	4.3	2.6	1.8

(2) 徘徊行動の有無別高齢者に提供された合計ケア時間

徘徊行動の有無別高齢者に提供された合計ケア時間は、それぞれ、徘徊行動がない高齢者群に提供された合計ケア時間の分布は表 9-10、徘徊行動がある高齢者群に提供された合計ケア時間の分布は図 9-1、9-2 のように示された。

徘徊の有無による合計ケア時間は、徘徊無し群は 225.3 分、徘徊有り群は 223.1 分と示され、２群間に統計的に有意な差はなかった。

表 9-10 徘徊行動の有無別高齢者に提供された合計ケア時間

	1 日平均(分)	1 週間平均(分)	標準偏差	変動係数	最小値	最大値	N
徘徊無し	225.3	1577.4	129.0	57.2	6.1	770.3	429
徘徊有り	223.1	1562.0	119.9	53.7	48.9	634.8	69

(3) 徘徊行動有無別発生していたケア内容別ケア時間

徘徊行動の有無別の発生したケア時間に統計的有意差があったケア内容は、「移乗」、「整理整頓」、「薬剤の使用」、「呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置」の 4 つのケアだけであった。

まず、「移乗」については、徘徊有り群は、2.8 分、無し群は、6.3 分であった。「整理整頓」は、徘徊有り群は、1.8 分、無し群は、3.3 分であった。「薬剤の使用」は、徘徊有り群は、6.4 分、無し群は、8.6 分であった。「呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置」は、徘徊有り群は、12.8 分、無し群は、81.6 分であった。いずれも「徘徊行動がない」群の方が有意にケア時間が長かった。

表 9-11 徘徊行動の有無別発生したケアにおいてケア時間に有意差のあったケア

		1日平均(分)	1週間平均(分)	標準偏差	変動係数	N	発生率(%)
22 移乗	徘徊無し	6.3	44.2	7.7	122.2	162	34.5
	徘徊有り	2.8	19.4	4.3	156.0	17	24.6
53 整理整頓	徘徊無し	3.3	23.4	3.7	111.6	128	27.3
	徘徊有り	1.8	12.6	2.0	112.3	22	31.9
81 薬剤の使用	徘徊無し	8.6	60.3	9.2	106.9	296	63.1
	徘徊有り	6.4	44.6	4.6	72.3	51	73.9
82 呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置	徘徊無し	81.6	570.9	113.3	138.9	76	16.2
	徘徊有り	12.8	89.6	20.4	159.6	5	7.2

3） 徘徊行動無し群に発生していたケアにおける提供ケア時間

「徘徊行動無し」群に高く発生していたケア内容は、「調理」で 90.2%で 37.6 分であった。「食器洗浄・食器の片づけ」で 81.4%で 15.4 分、「清掃・ごみの処理」80.0%で 8.2 分、「洗濯」79.5%で 11.6 分、「更衣」79.0%で 10.1 分、「摂食」70.9%で 47.8 分であった。これらの 6 種類のケアは、7 割以上に発生し、提供時間も長いケアであり、とくに食事関連のケアは、摂食のケアが 47.8 分とかなり長い時間を示していた。

次に、「薬剤の使用」69.0%で 8.6 分、「水分摂取」65.3%で 9.0 分、「洗面・手洗い」61.1%、4.6 分、「対象者に関する間接業務」58.0%で 7.2 分、「敷地内の移動」57.6%で 12.1 分、「入浴」57.1%で 15.2 分、「口腔・耳ケア」、「排便及びおむつ・パット介助」54.8%で、それぞれ 7.6 分、24.5 分と「排尿」53.8%で 21.5 分、「配膳・下膳」、「観察・測定・検査」53.1%で、それぞれ 7.3 分、8.7 分となっていた。これらは、５割以上に発生していたケアで発生率が高かった。とくに排泄関連のケアについては、20 分以上と提供時間が長かった。

「外出時の目的地までの移動」45.7%で 6.6 分、「整容」40.3%で 3.7 分、「運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置」38.0%で 6.6 分、「移乗」37.8%で 6.3 分、「その他の会話」33.3%で 13.3 分、「基本日常生活訓練」32.6%で 13.2 分でこれらのケアは、３割以上に発生していたが、会話や日常生活訓練は、10 分以上提供されており、高い発生率で提供時間が長かったケアといえる。

このほかに、「整理整頓」29.8%で 3.3 分、「清拭」 25.2%で 9.5 分、「体位変換」22.8%、9.3 分、「呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置」17.7%で 81.6 分、「行動上の問題の予防的対応」14.7%で 14.7 分、「来訪者への対応」12.6%で 7.2 分、「行動上の問題の発生時の対応」11.2%で 2.5 分、「戸締まり・火の始末・防災」10.7%で 2.5 分、「指導・助言」10.5%で 3.7 分、「起座」10.0%で 5.1 分で、ケアの発生率が比較的高いケアであった。

ケアが発生すると、ケア時間が長かったケアとして、1 日あたりで 10 分以上提供されていたケアは、19 種類であった。最も長かったのは、「呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置」81.6 分で発生率も 17.7%と比較的高く、このケア時間の長さは、徘徊無し群においては、有り群と比較して特に異なった傾向を示していた。

「摂食」47.8 分、「調理」37.6 分、「排便及びおむつ・パット介助」24.5 分、「排尿」21.5 分、「職員に関する間接業務」19.7 分、「その他の移動」17.0 分、「食器洗浄・食器の片づけ」15.7 分、「入浴」15.2 分、「その他の会話」13.3 分、「基本日常生活訓練」13.2 分、「敷地内の移動」12.1 分、「行動上の問題の予防的訓練」11.7 分、「洗濯」11.6 分、「その他の食事」10.6 分、「更衣」10.1 分と示されていた。

変動係数が高かったケアとしては、「行動上の問題の発生時への対応」823.2、「行動上の問題の予防的対応」579.0、「その他の食事」236.8、「起座」211.0、「電話、FAX、E-mail、手紙」211.0、「運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置」191.1、「洗髪」184.9、「観察・測定・検査」183.8、「来訪者への対応」176.1、「その他の移動」174.5、「その他の

排泄」154.9、「基本日常生活訓練」148.6、「起立」147.3、「その他の医療」145.9、「対象者に関する間接業務」145.5、「体位変換」142.3、「呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置」138.9、「その他の会話」138.5、「社会生活訓練」138.1、「金銭管理」137.5、「水分摂取」129.2、「その他の入浴」129.2、「清拭」124.5、「スポーツ訓練」124.4、「敷地内の移動」124.1、「病気の症状への対応」122.3、「移乗」122.2、「応用日常生活訓練」119.3、「外出時の目的地までの移動」118.1、「指導・助言」116.8、「社会生活支援のその他」115.7、「排便及びおむつ・パット介助」114.6、「配膳・下膳」111.7、「整理整頓」111.6、「行事、クラブ活動」、「整容」109.8、「薬剤の使用」106.9、「食べ物の管理」104.6、「排尿」103.2 といずれも変動係数が高く、介護者によってケアの提供時間に大きな差があることを示していた。

とくに「行動上の問題の発生時への対応」と「行動上の問題の予防的対応」については、介護者によっては、まったく対応をしないものが多くいることから、このように大きな数値が示されていた。

表 9-12　「徘徊行動無し」群に発生していたケアにおける提供ケア時間（N=429）（平均時間降順上位 20 位）

	1 日平均(分)	1週間平均(分)	標準偏差	変動係数	N	発生率(%)
82　呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置	81.6	570.9	113.3	138.9	76.0	17.7
34　摂食	47.8	334.6	33.1	69.3	304.0	70.9
31　調理	37.6	263.3	21.6	57.4	387.0	90.2
42　排便及びおむつ・パット介助	24.5	171.4	28.0	114.6	235.0	54.8
41　排尿	21.5	150.5	22.2	103.2	231.0	53.8
102　職員に関する間接業務	19.7	138.0	14.1	71.7	2.0	0.5
29　その他の移動	17.0	119.0	29.7	174.5	4.0	0.9
33　食器洗浄・食器の片づけ	15.4	107.8	11.8	76.7	349.0	81.4
11　入浴	15.2	106.7	12.0	79.0	245.0	57.1
59　その他の会話	13.3	92.8	18.4	138.5	143.0	33.3
91　基本日常生活訓練	13.2	92.1	19.5	148.6	140.0	32.6
21　敷地内の移動	12.1	84.8	15.0	124.1	247.0	57.6
73　行動上の問題の予防的訓練	11.7	81.8	11.7	99.9	4.0	0.9
51　洗濯	11.6	81.0	9.8	84.5	341.0	79.5
39　その他の食事	10.6	74.4	25.2	236.8	10.0	2.3
18　更衣	10.1	70.9	9.6	94.7	339.0	79.0
12　清拭	9.5	66.8	11.9	124.5	108.0	25.2

23　体位変換	9.3	65.1	13.2	142.3	98.0	22.8
92　応用日常生活訓練	9.3	65.1	11.1	119.3	28.0	6.5
35　水分摂取	9.0	62.9	11.6	129.2	280.0	65.3

4)　「徘徊行動有り」群に発生していたケアにおける提供ケア時間

「徘徊行動有り」群に高く発生していたケア内容は、「調理」97.1%で 35.5 分であった。次に、「更衣」88.4%で 11.3 分、「食器洗浄・食器の片づけ」88.4%で 13.0 分、「洗濯」82.6%で 11.7 分、「摂食」79.7%で 39.1 分、「清掃・ごみの処理」78.3%で 8.6 分、「薬剤の使用」73.9%で 6.4 分、「排尿」71.0%で 17.7 分であった。これらの 8 種類のケアは、7 割以上に発生し、提供時間も長いケアであり、とくに食事関連のケアは、摂食のケアが 39.1 分とかなり長い時間を示し、さらに、徘徊無し群に比較すると、薬剤の使用や排尿に係るケアの発生率が高かった。

次に、「入浴」、「敷地内の移動」、「外出時の目的地までの移動」が 68.1%で、それぞれ 14.8 分、11.6 分、8.7 分と示された。「洗面・手洗い」62.3%、4.0 分、「水分摂取」59.4%で 7.8 分、「対象者に関する間接業務」58.0%で 7.1 分、「排便及びおむつ・パット介助」55.1%、16.2 分で、「行動上の問題の予防的対応」52.2%、31.1 分と示され、これらのケアは、５割以上に発生していたケアで発生率が高かった。とくに行動上の問題への対応は、30 分以上と示され、提供時間が長かった。「口腔・耳ケア」49.3%、24.5 分、「配膳・下膳」49.3%、6.3 分、「観察・測定・検査」37.7%で 6.0 分、「その他の会話」36.2%で 10.7 分、「整容」34.8%で 3.8 分、「整理整頓」31.9%で 1.8 分、これらのケアは、３割以上に発生していたが、会話は、10 分以上提供されており、高い発生率で提供時間が長かったケアといえる。

このほかに、「移乗」24.6%で 2.8 分、「運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置」20.3%で 10.8 分、「基本日常生活訓練」17.4%で 7.2 分、「戸締まり・火の始末・防災」15.9%、2.5 分、「来訪者への対応」14.5%で 11.3 分、「外出時の目的地での行為」10.1%、9.7 分、「応用日常生活訓練」10.1%、3.6 分が 1 割以上に発生しており、比較的多く提供されていたケアであった。

徘徊無し群に多く提供されていた「清拭」、「体位変換」、「呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置」、「起座」等のケアの発生率は、徘徊有り群では低かった。

ケアが発生すると、ケア時間が長かったケアとして、1 日あたりで 10 分以上提供されていたケアは、19 種類であった。最も長かったのは、「摂食」39.1 分、「調理」35.5 分、「行動上の問題の発生時の対応」35.1 分、「行動上の問題の予防的訓練」31.1 分と示され、徘徊有り群においては、以上の 4 種類のケア時間が 30 分以上と長かった。とくに、「行動上の問題の発生時の対応」35.1 分、「行動上の問題の予防的対応」31.1 分といずれも 30 分以上提供されており、問題行動が発生した場合の時間が長いことを示していた。

次いで、「排尿」17.7 分、「排便及びおむつ・パット介助」16.2 分、「入浴」14.8 分、「食

器洗浄・食器の片づけ」13.0 分、「呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置」12.8 分、「金銭管理」12.6 分、「洗濯」11.7 分、「敷地内の移動」11.6 分、「更衣」11.3 分、「来訪者への対応」11.3 分、「体位変換」11.3 分、「その他の機能訓練」11.0 分、「運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置」10.8 分、「その他の会話」10.7 分が示された。徘徊無し群に比較すると発生率 4.3%と低いが金銭管理が 12.6 分と長く提供されていたことは、徘徊有り群の特徴といえよう。

変動係数が高かったケアとしては、「行動上の問題の予防的対応」203.2、「起座」176.3、「観察・測定・検査」166.3、「排便及びおむつ・パット介助」159.8、「呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置」159.6、「行動上の問題の発生時の対応」158.5、「移乗」156.0、「金銭管理」153.7、「敷地内の移動」144.6、「運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置」141.4、「戸締まり・火の始末・防災」139.9、「清拭」134.3、「来訪者への対応」130.8、「対象者に関する間接業務」129.7、「洗髪」128.0、「外出時の目的地までの移動」127.3、「入浴」119.6、「体位変換」117.8、「清掃・ごみの処理」115.0、「その他の会話」114.4、「整理整頓」112.3、「排尿」110.3、「水分摂取」106.9、「その他の機能訓練」105.4、「電話、FAX、E-mail、手紙」102.6、といずれも変動係数が高く、介護者によってケアの提供時間に大きな差があることを示していた。

表 9-13　「徘徊行動がある」群に発生していたケアにおけるケア内容別ケア時間（N=69）（上位 20 位）

	1 日平均（分）	1週間平均（分）	変動係数	標準偏差	N	発生率（%）
34　摂食	39.1	273.6	78.2	30.6	55	79.7
31　調理	35.5	248.8	59.7	21.2	67	97.1
71　行動上の問題の発生時の対応	35.1	245.7	158.5	55.6	29	42.0
72　行動上の問題の予防的対応	31.1	217.9	203.2	63.3	36	52.2
41　排尿	17.7	123.6	110.3	19.5	49	71.0
42　排便及びおむつ・パット介助	16.2	113.4	159.8	25.9	38	55.1
11　入浴	14.8	103.8	119.6	17.7	47	68.1
33　食器洗浄・食器の片づけ	13.0	91.2	67.7	8.8	61	88.4
82　呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置	12.8	89.6	159.6	20.4	5	7.2
55　金銭管理	12.6	88.3	153.7	19.4	3	4.3
51　洗濯	11.7	82.2	77.0	9.0	57	82.6
21　敷地内の移動	11.6	80.9	144.6	16.7	47	68.1
64　来訪者への対応	11.3	79.1	130.8	14.8	10	14.5
23　体位変換	11.3	79.3	117.8	13.3	4	5.8

18	更衣	11.3	78.8	76.3	8.6	61	88.4
99	その他の機能訓練	11.0	76.7	105.4	11.5	3	4.3
83	運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置	10.8	75.4	141.4	15.2	14	20.3
59	その他の会話	10.7	74.9	114.4	12.2	25	36.2
66	外出時の目的地での行為	9.7	67.9	99.9	9.7	7	10.1
65	外出時の目的地までの移動	8.7	61.2	127.3	11.1	47	68.1

第10章　　要介護度区分別高齢者に提供されたケア内容

本章では、要支援１、要支援２、要介護１を「軽度」、要介護３、要介護４を「中度」、要介護４、要介護５を「重度」とした３群間において提供されたケア内容にどのような差異があるかについて、なお、対象となった高齢者においては、二次判定が示されていなかった者が含まれており、この 28 名を除外した 471 名の分析を行った。

(1)　要介護度区分別高齢者に提供されたケア内容別発生率

①　軽度、中度、重度群のケア発生率の調査結果

軽度、中度、重度群までそれぞれのケアの発生率の平均は、軽度 20.2%、中度 26.9%、重度 29.7%と示された。重度群のケア発生率が最も高かった。

要介護度区分に関わらず、軽度、中度、重度において 6 割以上に提供されていたケアとしては、「排便及びおむつ・パット介助」、「更衣」、「調理」、「摂食」、「洗面・手洗い」、「清掃・ごみの処理」、「洗濯」、「薬剤の使用」、「食器洗浄・食器の片づけ」、「水分摂取」、「口腔・耳ケア」、「観察・測定・検査」、「対象者に関する間接業務」、「敷地内の移動」、「入浴」の 15 のケアであった。

軽度、中度、重度でケアの発生率を比較すると、重度群だけがは、もっとも高い発生率を示したのが、「排便及びおむつ・パット介助」92.7%であったのに対し、軽度、中度においては、調理の発生率がもっとも高く、それぞれ、91.1%、96.2%であった。また、中度や重度においては、それぞれ「更衣」87.0%、「更衣」87.8%と高かった。

②　軽度群に注目したケア発生率の考察

高い発生率が示されたのは、「調理」91.1%、「清掃・ごみの処理」87.8%、「洗濯」82.1%、「食器洗浄・食器の片づけ」80.5%、「更衣」61.8%といったケアであった。これらは衣食住の生活要素の基本的な部分にかかわるケアであった。言い換えるなら、これ以外のケアについては発生頻度がまちまちであり、軽度群に必要なケアは多様な種類に渡ることが推察された。

一方、軽度群で発生しなかったケアは、「その他の医療」、「その他の機能訓練」、「その他の間接業務」の 3 つのケアであった。

③ 中度群に注目したケア発生率の考察

高い発生率が示されたのは、「調理」96.2%、「食器洗浄・食器の片づけ」90.8%、「更衣」87.0%、「洗濯」81.0%、「清掃・ごみの処理」76.1%、「摂食」75.5%、「薬剤の使用」74.5%「洗面・手洗い」70.1%、「敷地内の移動」69.0%、「排尿」69.0%、「水分摂取」67.9%、「配膳・下膳」63.6%、「外出時の目的地までの移動」60.3%であり、療養上の世話にかかわるケア内容が示された。

一方、中度群で発生しなかったケアは、「職能訓練・生産活動」、「社会生活支援のその他」、「その他の行動上の問題」、「職員に関する間接業務」の4つのケアであった。

④ 重度群に注目したケア発生率の考察

高い発生率が示されたのは、「排便及びおむつ・パット介助」92.7%、「更衣」87.8%、「調理」84.8%、「摂食」81.7%、「洗面・手洗い」79.3%、「清掃・ごみの処理」77.4%、「洗濯」75.6%、「薬剤の使用」75.6%、「食器洗浄・食器の片づけ」73.8%、「水分摂取」73.8%、「口腔・耳ケア」73.2%、「観察・測定・検査」72.0%、「対象者に関する間接業務」65.2%、「敷地内の移動」61.6%、「入浴」61.0%といったケアであった。

「対象者に関する間接業務」や「観察・測定・検査」は他の群より高く、また「排便及びおむつ・パット介助」が他の群ではそれほど高くなかったが、重度群にもっとも多く発生しているケアであった。

一方、重度群で発生しなかったケアは、「職能訓練・生産活動」、「職員に関する間接業務」、「その他の間接業務」の三つであった。

表 10-1　要介護度区分別高齢者に提供されたケア内容別発生率（軽度群降順上位 20 位）

	軽度 (N=123)	中度 (N=184)	重度 (N=164)
	%	%	%
31　調理	91.1	96.2	84.8
52　清掃・ごみの処理	87.8	76.1	77.4
51　洗濯	82.1	81.0	75.6
33　食器洗浄・食器の片づけ	80.5	90.8	73.8
18　更衣	61.8	87.0	87.8
34　摂食	56.1	75.5	81.7
11　入浴	55.3	57.6	61.0
81　薬剤の使用	52.8	74.5	75.6
101　対象者に関する間接業務	52.8	54.3	65.2
65　外出時の目的地までの移動	52.0	60.3	35.4

35　水分摂取	46.3	67.9	73.8
21　敷地内の移動	44.7	69.0	61.6
41　排尿	41.5	69.0	56.7
32　配膳・下膳	39.8	63.6	47.6
59　その他の会話	34.1	36.4	29.9
84　観察・測定・検査	30.1	45.1	72.0
53　整理整頓	29.3	32.6	26.2
14　洗面・手洗い	26.8	70.1	79.3
15　口腔・耳ケア	26.0	57.1	73.2
17　整容	20.3	41.3	53.0

(2)　要介護度区分別高齢者に提供された合計ケア時間

要介護度区分別に高齢者に提供された合計ケア時間を分析したところ、以下の表 10-2、図 10-1、10-2、10-3 のように示された。1 日あたり高齢者に提供された平均ケア時間は、軽度群が 140.1 分、中度群が、219.8 分、重度群が 295.5 分と要介護度区分が高くなるにしたがって長くなっていた。

また、要介護度区分別の合計ケア時間について検定を行ったところ、表 10-3 のようにいずれの区分間においても統計的な有意差が示された。

表 10-2　要介護度区分別高齢者に提供された合計ケア時間

	1 日平均（分）	1 週間平均（分）	標準偏差	変動係数	最小値	最大値	N
軽度	140.1	980.4	91.4	65.3	6.1	449.1	123
中度	219.8	1538.6	101.4	46.1	25.7	770.3	184
重度	295.5	2068.3	134.2	45.4	67.8	727.8	164

表 10-3　要介護程度区分別合計ケア時間の検定結果

	平均値の差	標準誤差	有意確率	95% 信頼区間	
				下限	上限
軽度　⇔　中度	-79.74	13.01	0.00	-105.30	-54.18
軽度　⇔　重度	-155.42	13.32	0.00	-181.59	-129.24
中度　⇔　重度	-75.68	11.99	0.00	-99.25	-52.11

(3)　要介護度区分別高齢者に提供されたケア内容別ケア時間

提供されたケアは、63 種類あったが、要介護度区分別に、ケアが 2 人以上発生していたケアの種類は、45 種類であった。

すべての要介護度には、ケアとして発生していなかったケアは、以下の 18 種類であった。具体的には、「月経への対処」、「起立」、「介助用具の着脱」、「その他の移動」、「その他の食事」、「その他の排泄」、「その他の生活自立支援」、「文書作成」、「職能訓練・生産活動」、「社会生活訓練」、「社会生活支援のその他」、「行動上の問題の予防的訓練」、「その他の行動上の問題」、「その他の医療」、「言語・聴覚訓練」、「その他の機能訓練」、「職員に関する間接業務」、「その他の間接業務」であった。

さらに、これを発生率が高かったケアから降順に並べ、要介護度間の有意な差の有無を示した結果、いずれかの要介護度間のケア時間に有意な差があったのは、「更衣」、「洗濯」、「摂食」、「薬剤の使用」、「水分摂取」、「入浴」、「対象者に関する間接業務」、「排尿」、「排便及びおむつ・パット介助」、「口腔・耳ケア」、「観察・測定・検査」、「移乗」、「清拭」、「呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置」の 14 種類であった。

「調理」、「食器洗浄・食器の片づけ」、「更衣」、「清掃・ごみの処理」、「洗濯」、「摂食」、「薬剤の使用」、「水分摂取」、「洗面・手洗い」、「敷地内の移動」などのケアは、発生率が６０％以上あったにも関わらず、有意差はみられなかった。

表 10-4　要介護区分別高齢者に提供されたケア内容別ケア時間（上位 20 位）

ケア内容	要介護度区分	1日平均(分)	1週間平均(分)	標準偏差	変動係数	N	発生率(%)
31　調理	軽度	34.6	242.1	18.0	52.2	112	91.1
	中度	38.1	266.8	20.6	54.1	177	96.2
	重度	38.3	268.3	24.5	63.9	139	84.8
	合計	37.3	260.8	21.4	57.3	428	90.9
33　食器洗浄・食器の片づけ	軽度	14.6	102.5	10.9	74.7	99	80.5
	中度	15.7	110.0	11.7	74.3	167	90.8
	重度	13.9	97.6	11.1	79.4	121	73.8
	合計	14.9	104.2	11.3	75.9	387	82.2
18　更衣*	軽度	6.5	45.4	7.5	115.6	76	61.8
	中度	11.6	81.3	8.8	76.0	160	87.0
	重度	10.9	76.0	10.5	97.1	144	87.8
	合計	10.3	72.1	9.5	91.9	380	80.7
52　清掃・ごみの処理	軽度	8.6	60.3	7.5	86.8	108	87.8
	中度	8.6	60.0	7.7	89.9	140	76.1

	重度	7.5	52.5	8.3	110.3	127	77.4
	合計	8.2	57.6	7.8	95.3	375	79.6
51　洗濯*	軽度	11.5	80.5	9.6	83.1	101	82.1
	中度	11.6	81.1	10.0	85.9	149	81.0
	重度	11.8	82.9	9.4	79.5	124	75.6
	合計	11.6	81.5	9.6	82.8	374	79.4
34　摂食*	軽度	36.3	254.0	27.6	76.1	69	56.1
	中度	44.7	313.0	29.2	65.2	139	75.5
	重度	55.0	385.2	37.3	67.8	134	81.7
	合計	47.1	329.4	33.0	70.2	342	72.6
35　水分摂取*	軽度	11.4	80.1	15.7	136.8	57	46.3
	中度	6.4	44.7	6.0	94.0	125	67.9
	重度	10.3	71.9	12.7	124.1	121	73.8
	合計	8.9	62.2	11.4	128.0	303	64.3
14　洗面・手洗い	軽度	3.6	25.5	3.1	85.2	33	26.8
	中度	4.4	30.9	3.7	83.0	129	70.1
	重度	5.0	35.0	3.6	72.4	130	79.3
	合計	4.6	32.1	3.6	78.5	292	62.0
81　薬剤の使用*	軽度	6.0	41.7	5.0	83.7	65	52.8
	中度	7.2	50.2	6.4	89.8	137	74.5
	重度	10.3	72.1	11.4	110.6	124	75.6
	合計	8.1	56.8	8.6	106.3	326	69.2
21　敷地内の移動	軽度	9.2	64.6	14.0	151.3	55	44.7
	中度	13.4	93.6	17.3	129.1	127	69.0
	重度	11.9	83.1	13.3	112.3	101	61.6
	合計	12.0	84.2	15.4	127.7	283	60.1
11　入浴*	軽度	12.3	86.0	10.7	86.8	68	55.3
	中度	15.0	105.2	14.5	96.3	106	57.6
	重度	17.2	120.4	13.0	75.4	100	61.0
	合計	15.1	106.0	13.2	86.9	274	58.2
101　対象者に関する間接業務*	軽度	5.8	40.7	8.2	140.9	65	52.8
	中度	6.1	42.7	8.5	139.1	100	54.3
	重度	9.0	62.7	12.3	137.2	107	65.2
	合計	7.2	50.1	10.2	142.0	272	57.7
41　排尿*	軽度	15.1	105.5	21.0	139.6	51	41.5

	中度	24.0	167.8	22.8	95.1	127	69.0
	重度	20.5	143.8	20.8	101.3	93	56.7
	合計	21.1	147.8	22.0	104.1	271	57.5
42　排便及びおむつ・パット介助*	軽度	6.5	45.2	8.7	134.9	21	17.1
	中度	17.7	124.2	28.5	160.8	85	46.2
	重度	28.6	200.3	28.2	98.5	152	92.7
	合計	23.2	162.6	28.1	120.9	258	54.8
15　口腔・耳ケア*	軽度	4.3	29.9	4.9	115.5	32	26.0
	中度	7.3	51.2	6.6	90.9	105	57.1
	重度	8.9	62.6	8.5	95.1	120	73.2
	合計	7.7	53.9	7.5	98.0	257	54.6
32　配膳・下膳	軽度	7.2	50.1	6.6	92.1	49	39.8
	中度	7.9	55.3	8.2	103.3	117	63.6
	重度	5.7	39.8	7.3	127.7	78	47.6
	合計	7.0	49.3	7.6	108.2	244	51.8
84　観察・測定・検査*	軽度	4.5	31.6	6.7	148.7	37	30.1
	中度	4.8	33.6	6.3	132.2	83	45.1
	重度	11.1	77.7	13.9	125.5	118	72.0
	合計	7.9	55.2	11.3	142.9	238	50.5
65　外出時の目的地までの移動	軽度	6.4	45.0	7.6	118.4	64	52.0
	中度	7.1	49.6	8.6	121.7	111	60.3
	重度	7.3	51.2	8.9	121.8	58	35.4
	合計	7.0	48.7	8.4	120.7	233	49.5
17　整容	軽度	3.1	21.9	2.4	77.0	25	20.3
	中度	3.5	24.7	4.2	119.5	76	41.3
	重度	4.1	28.6	4.2	102.2	87	53.0
	合計	3.7	26.2	4.0	107.2	188	39.9
22　移乗*	軽度	2.1	14.8	2.1	99.2	24	19.5
	中度	5.2	36.7	8.1	154.7	61	33.2
	重度	7.8	54.5	7.7	99.1	87	53.0
	合計	6.1	42.6	7.6	124.6	172	36.5

表 10-5　要介護度区分別発生ケア時間の検定結果（発生率降順）

	軽度⇔中度	軽度⇔重度	中度⇔重度
11 入浴	0.18	0.02	0.23
12 清拭	0.69	0.11	0.03
13 洗髪	0.95	0.29	0.28
14 洗面・手洗い	0.28	0.05	0.19
15 口腔・耳ケア	0.04	0.00	0.10
17 整容	0.66	0.29	0.38
18 更衣	0.00	0.00	0.48
19 その他の入浴	0.06	0.77	0.04
21 敷地内の移動	0.10	0.30	0.47
22 移乗	0.08	0.00	0.04
23 体位変換	0.73	0.18	0.05
24 起座	0.91	0.79	0.79
31 調理	0.17	0.17	0.93
32 配膳・下膳	0.56	0.29	0.05
33 食器洗浄・食器の片づけ	0.63	0.57	0.91
34 摂食	0.08	0.00	0.01
35 水分摂取	0.01	0.51	0.01
41 排尿	0.01	0.15	0.25
42 排便及びおむつ・パット介助	0.09	0.00	0.00
51 洗濯	0.94	0.79	0.83
52 清掃・ごみの処理	0.97	0.28	0.27
53 整理整頓	0.76	0.23	0.09
54 食べ物の管理	0.60	0.34	0.63
55 金銭管理	0.68	0.34	0.22
56 戸締まり・火の始末・防災	0.79	0.37	0.25
59 その他の会話	0.55	0.98	0.51
61 行事、クラブ活動	0.49	0.80	0.71
62 電話、FAX、E-mail、手紙	0.50	0.38	0.86
64 来訪者への対応	0.93	0.19	0.09
65 外出時の目的地までの移動	0.62	0.57	0.87
66 外出時の目的地での行為	0.38	0.50	0.16
71 行動上の問題の発生時の対応	0.24	0.16	0.66
72 行動上の問題の予防的対応	0.33	0.54	0.64
81 薬剤の使用	0.34	0.00	0.00
82 呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置	0.97	0.19	0.03
83 運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置	0.46	0.20	0.44
84 観察・測定・検査	0.90	0.00	0.00
85 指導・助言	0.73	0.54	0.20
86 病気の症状への対応	0.41	0.51	0.76
91 基本日常生活訓練	0.82	0.40	0.41
92 応用日常生活訓練	0.07	0.19	0.59
94 スポーツ訓練	0.90	0.37	0.43
95 牽引・温熱・電気療法	0.16	0.86	0.06
101 対象者に関する間接業務	0.86	0.05	0.04

第11章　在宅において長く介護が提供されていた高齢者に対する介護パターン分析—介護提供時間の上位 10 名の事例分析を通して—

本章では、在宅において長く介護が提供されていた高齢者に対する介護パターンについて、分析を行った。在宅タイムスタディデータにおいて、合計ケア時間が最も長かった上位、そして最も短かった下位 10 名の属性および提供されていたケア内容について、以下にに検討を行った。

1. 合計ケア時間の上位 10 人と下位 10 人の属性

(1) 年齢

平均年齢は、上位 10 人の方がわずかに高かったが、年齢において 2 群間に統計的有意差は見られなかった。

表 11-1　合計ケア時間上位下位 10 人の平均年齢

	平均年齢	標準偏差	最小値	最大値	N
上位 10 人	83.0	11.1	59.0	97.0	10
下位 10 人	82.4	5.5	75.0	93.0	9

(2) 性別

性別については、上位 10 人が男性 6 名、女性 4 名と男性の方が多かったのに対し、下位 10 人は男性 2 名、女性 8 名と女性の方が多い傾向にあった。

表 11-2　合計ケア時間上位下位 10 人の性別

		上位 10 名		下位 10 名	
		N	%	N	%
性別	男性	6	60.0	2	20.0%
	女性	4	40.0	8	80.0%

(3) 要介護度

要支援 1 を 1、要介護 5 を 7 とした場合の上位 10 人と下位 10 人の平均要介護度をみた。上位 10 人の平均要介護度は、一次判定で 6.3、二次判定で 5.9 であった。一方、下位 10 人

は一次判定で3.0、二次判定で2.8と平均要介護度は、3段階程度開きがあった。

また、データ数が10人中9人あった二次判定でみると、上位10人で最も多かったのは、要介護5で5人最も多く、次いで要介護3が2人、要介護2と4がそれぞれ1人であった。

一方、下位10人は、要介護1が6人と最も多く、次いで要支援1、要支援2、要介護2がそれぞれ1人であった。

表 11-3　合計ケア時間上位下位10人の平均要介護度

		平均要介護度	標準偏差	最小値	最大値	N
1次判定	上位10人	6.3	0.8	5	7	6
	下位10人	3.0	0.6	2	4	6
2次判定	上位10人	5.9	1.7	2	7	9
	下位10人	2.8	0.8	1	4	9

※要支援1を1、要介護5を7とした場合。

表 11-4　合計ケア時間上位下位10人の要介護度の分布

		上位10人		下位10人	
		N	%	N	%
一次判定	要支援1	0	0.0	0	0.0
	要支援2	0	0.0	1	16.7
	要介護1	0	0.0	4	66.7
	要介護2	0	0.0	1	16.7
	要介護3	1	16.7	0	0.0
	要介護4	2	33.3	0	0.0
	要介護5	3	50.0	0	0.0
合計		6	100.0	6	100.0
二次判定	要支援1	0	0.0	1	11.1
	要支援2	1	11.1	1	11.1
	要介護1	0	0.0	6	66.7
	要介護2	0	0.0	1	11.1
	要介護3	2	22.2	0	0.0
	要介護4	1	11.1	0	0.0
	要介護5	5	55.6	0	0.0
合計		9	100.0	9	100.0